

若宮正子 さん

かがやき
Old and New
Story

今も毎日、好奇心の赴くまま！
無我夢中で楽しんでいます

Wakamiya
Masako

89歳。
常にやりたいと
思ったときが
スタートです

今年89歳になりましたが、今日も
こうして元気に楽しくお話をさせてい
ただいているのだから、人生100年
時代、本当に何がきっかけになるか
わからないものです。

Apple社のCEOティム・クック氏
に「世界最高齢のアプリ開発者」と
ご紹介していただいて、いまではIT
エバンジェリスト(伝道師)とも呼ば
れていますが、もとはただの「パソコ
ン好きのおばあちゃん」です。その
パソコンだって始めたのは、定年目
前の58歳。皆さんに驚かれますが、
私にとってはいくつになっても「やり
たい」と思った瞬間がスタートです。
だから、そんなに驚くようなことか
しら?なんて思っちゃうのね。皆さんIT
をやるのは若い男性で、私みたいな
おばあちゃんがやるようなもんじゃ
ないと、どこか思い込んでいるとこ
ろがあるんでしょう。でも、誰に迷惑を
かけるわけでもないし、バンジージャン
プをやるわけでもない(笑)。人
間をやっている間はみんな同じ。
それなら私がやってもいいじゃない?
と思うんです。

81歳でiPhoneアプリ「hinadan」を開発。

世界最高齢のアプリ開発者として、一躍時の人となった若宮正子さん。

89歳になった現在も、パワフルに日本と世界を

飛び回る、そのパワーの原点と原動力についてお話を伺います。



世の価値観なんて当てにしてちゃダメね

私は1935年生まれですから、物心がついた頃には戦争が始まっていました。学校も小学校ではなく「国民学校」。習う歌も5歳上の兄は「咲いた 咲いた 桜が咲いた～」と、のどかなものだったのが、私の頃には「工場だ、機械だ、鉄だよ、音だよ、ドドンドドドン」ですよ。ドレミなんか使っちゃいけないっていうので、「はにほへと」で習っていました。

学童疎開で親元を離れて長野に越したり、父の会社が疎開するというので兵庫県へ家族で越したり、東京に戻ったり……転々とする子ども時代でしたが、どこへ行たって食べるものなんて満足にないんですね。だから、いつもおなかを空かせていました。大人だって生きていくのに精一杯ですから、子どもも子ども扱いなんてしてもらえません。私も大きなリュックを背負って、一人電車を乗り継いで、遠い親戚の家まで芋を分けてもらいに行っていました。みんな早く大人になるしかなくて、今になって、私にも子ども時代があったんだなぁという感じです。

ところが、そうやって戦争一色の中、一億総動員で散々な経験をしてきたのに、戦争に負けた途端、国は手のひらを返したように「今までのことはみんな忘れて、アメリカさんのいうことを聞きなさい」というんですね。当時10歳でしたが、大人というのはなんて矛盾したことを平気でいうんだろうと不信感しかありませんでした。おまけにGHQの占領下ではアメリカナイズされた教育を推進しながら、独立したら今度は昔の日本のやり方

に戻すというでしょう？これはいちいち大人や役所のいうことを聞いてられないぞっていうのが本音ですね(笑)。

どう生きるか、何が正しいか、答えは自分で見つけようと心に決めました。人のいうことなんて当てにならないんだから、それなら自分のやりたいことをやったほうがいいと思ったんですね。それは今もまったく変わりません。

大切なのは

柔軟にいろいろなものを吸収する

「吸い取り紙」のような心です



Old and New
Story



エクセルアーティストとしても活躍中！
海外でのワークショップ也大盛況でした



お気に入りのエクセルアート作品は
シャツや帽子にも仕立てます



嫌ならやめればいいの。中途半端でいいんです

やりたいことをやるのに、皆さん「一歩が踏み出せない」とおっしゃいます。「年だから」「下手だから」と、いろいろ理由をつけちゃうんですね。きっと真面目なんでしょう。私なんか、いつもやって嫌ならやめればいいやぐらいの気持ちです。何も菊五郎、菊六郎を襲名しろというわけではないのだから、やるだけやってみようの精神です(笑)。

若い頃、日本舞踊を習ったときも、どうも私には向かないなと思い、しばらくしてスパッとやめてしまいました。でも、

多少なりと習ったおかげで、お芝居やテレビを見ても「これは常磐津節だ、清元節だ」と分かって楽しいんですね。モノにはならなかったって、自分の人生は確実に豊かになっている。だから皆さんも大いにやって、大いに失敗して、大いに中途半端でいいんじゃないかと思います。

勉強でもなんでも、時代とともに中身はどんどん変わっていきます。ましてや人生100年時代、思い詰めて完璧を目指すより、柔軟にいろいろなものを吸収

する「吸い取り紙」のような心でいることのほうが大事です。特に子どもたちには、いろいろな人や場面に触れて、勉強=楽しいと思えるような経験を重ねてほしいですね。学校から社会に出ても勉強は続いていくのだから、どうせなら楽しいほうがいいでしょう(笑)。「何かを知ることは素晴らしい」と思えたら、この上なく楽しい100歳になれるんじゃないかしら。

有り余る好奇心はこの頃から。
本を読むのも大好きでした



1942年の戦中時代、防空頭巾を被って。
家族との貴重な一枚です

子どもたちへのメッセージ

この世の中にはね、素晴らしいことがいっぱいあります。だから、生きている間に目一杯、素晴らしいことを発見して、それを自分の頭なり、心なりに入れていってほしいと思います。どんどん感動して、心を動かしてください。

うちは近くに江ノ電が走っているのですが、夕方になると江の島を残して一面が夕焼けして、それはもうハツとするぐらいに美しいんです。自分も頭の前からぐるり真っ赤に染まってしまうのね。そういう美しい景色を、スマートフォンの高解像度カメラで切り取るのではなく、丸ごと心に焼き付けてほしいと思います。心を動かすことを、思い切り楽しんでください。



Present

お江戸deクイズ(P33)
正解者の中から抽選で1名様に
若宮正子さんの著書とおすめの
なると金時里むすめ焼き芋をプレゼント！
どしどしご応募ください！



Profile

1935年東京都生まれ。東京教育大学附属高等学校(現・筑波大学附属高等学校)卒業後、三菱銀行(現・三菱UFJ銀行)に就職。定年をきっかけにパソコンを独自に習得し、同居する母親の介護をしながらパソコンの楽しさにのめり込む。99年にシニア世代のサイト「メロウ倶楽部」の創設に参画し、現在も副会長を務める。「エクセルアート」を考案し、2017年、81歳で雛人形を正しく配置するiPhone用ゲームアプリ「hinadan」をリリース。米国Apple社の世界開発者会議「WWDC 2017」に特別招待。ITエバンジェリスト、デジタルクリエイターとして世界的に活躍中。



ITエバンジェリスト・世界最高齢プログラマー 若宮正子さん